

平成26年度学校経営計画に対する自己評価計画書

重点目標	具体的取組	担当	現状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考	
1 県工スタンダードの実践を推進し、わかりやすい授業に努め、確かな学力の向上を図るとともに、教師の授業力向上に努める。	①	県工スタンダードを活用し、明確な目標に基づいた指導と評価を行うことにより、わかりやすい授業の実践につなげる。	教務課 各教科	昨年度作成した県工スタンダードに沿った授業を実践し、生徒の学習意欲の喚起、授業態度の積極性、授業の理解度や満足度を高める授業を展開する必要がある。	【満足度指標】 教師によるわかりやすい授業は、生徒の授業に対する満足度につながる。	生徒の授業アンケートにより、わかりやすい授業であり、授業に満足していると回答する生徒の割合で判断する。 A 85%以上 B 80%～85%未満 C 75%～80%未満 D 75%未満	C以下の場合は、教務委員会、各教科等を中心に、目標の提示方法などを再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
	②	生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。	教務課 各教科	家庭学習時間の減少や主体的な学習への取り組みが課題となっており、学習に対する意識付けや家庭学習につながる課題の出し方などを検討し、改善することが必要である。	【努力指標】 予習・復習及び資格取得に向けた学習等、通常の授業以外の学習時間を確保する。	学校での補習や家庭での学習時間を1日1時間確保できているかどうかで判断する。 A ほとんど確保できた B 週に2～3回確保できた C 週に1回程度確保できた D ほとんど確保できなかった	C以下の場合は、教務委員会、各教科等を中心に、意識付けの方法や課題の出し方を再検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
	③	教師個人及び各教科にて積極的に授業改善に取り組み、全体的な授業力の向上を目指す。	教務課 全教員	更なる授業力向上に向けて、相互の授業参観および公開授業後の整理会への参加を通じて、魅力ある授業づくりに取り組むことが求められている。授業公開ウイークを前後期で実施している。	【努力指標】 授業を公開し相互に授業参観し、併せてより多くの整理会・研究協議会に参加する。	1年間の研究協議会や校内研修に参加した回数で判断する。 A 3回以上 B 2回 C 1回 D できなかった	教師の自己評価でC＋D評価が50%以上の場合、再検討する。	教師の自己評価アンケートを実施する。 (7月、12月)
	④	授業の情報化及びわかりやすい授業に向けて、ICT機器の活用を促進する。	学習情報課	昨年度、新たに書画カメラが導入され、若手教員を中心に、活用が進められているが、まだICT機器を活用した授業の比率は多くない。授業におけるICT機器の活用を一層図る必要がある。	【努力指標】 ICT機器の活用を促進し、授業におけるICT機器の利用数を増やす。	教師一人当たりの1年間の利用数で判断する。 A 5回以上 B 3回～5回未満 C 1回～3回未満 D 0回	C以下の場合は、学習情報課を中心に、ICT機器利用に係る研修のあり方を見直す。	年度末に利用数を集計する。
2 校訓を掲げた学校づくりを進め、規範意識やマナーの向上、責任感の醸成を図り、将来の職業人としての意識の高い生徒の育成を目指す。	①	校訓を掲げることにより、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識を高め、共通の理念のもと、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	卒業後に実社会へ出ていく本校生徒にとっての基本的な生活習慣である挨拶や時間の励行等については常に指導の対象となっている。挨拶励行が校是として確立するよう引き続き取り組む必要がある。	【努力指標】 毎日の挨拶の励行により活力のある学校の校風をつくる。	生徒のアンケートにより、挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は、生徒指導課・学年団を中心に指導の改善を図る。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 (7月、12月)
		周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	町中であって周辺地域に対する理解や協力が必要であり、今後ともボランティア活動を通じた一層の連携強化が求められる。	【努力指標】 ボランティア活動に積極的に参加する意識を育てる。	皆出席者の割合で判断する。 A 55%以上 B 50%～55%未満 C 45%～50%未満 D 45%未満	C以下の場合は、学年団を中心に次年度の意識改革を図る。	年度末に集約し、判断する。
	②	交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	一昨年に比べ、昨年は違反件数が40%以上減少したが、依然年間で100件を超える違反指導件数がある。なお一層の減少に向けた取組が求められる。	【努力指標】 石川県警察が発表する月別の違反指導件数の推移をみる。	違反指導件数の減少の割合とする。 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	Dの場合は、生徒指導課を中心に、指導方法を再検討し、全校的な意識の変革を図る。	県警発表の件数で判断する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備考
3 就職、進学ともに確かな進路表現を図り、それに向けた資格取得や検定等に意欲的に取り組み、専門分野の技能向上に努める。	① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。	進路指導課 3年学年団	今年度は昨年以上に就職希望者が多く、各科に応じた求人数を確保し、企業が求める人材と生徒の資質や特性とのマッチングが求められている。	【成果指標】 就職希望者の1社目受験での内定率をみる。	就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。 A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	C以下の場合は、内容を分析し、次年度の進路指導に反映させる。	年度末に集約し、判断する。
	② 専門分野の技能向上の一環として、課題研究の内容充実を図る。	工業7科	課題研究は工業教育の柱のひとつであり、各科専門分野に係る学習の集大成として、より充実した取組と成果が求められる。	【成果指標】 県工展における来場者アンケートから、作品に対する評価をみる。	作品に対する高評価の割合で判断する。 A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満	Dの場合は、担当学科を中心に、取り組みを再検討する。	県工展の来場者を対象にアンケート調査を実施し、判断する。
	③ 生徒の将来に役立つ資格取得に積極的に取り組む。	工業7科 教務課	資格取得は専門学校における職業教育の中核となるものである。県工スタンダードを柱に据え、各科ごとにより一層資格取得に取り組む必要がある。	【成果指標】 ジュニアマイスター認定者数の状況をみる。	認定者数（特別表彰＋ゴールド＋シルバー）で判断する。 A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満	Dの場合は、工業各科で指導方法や指導内容を再検討する。	年度末に集約し、判断する。
	④ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。	工業7科	それぞれの科に関係する様々な全国大会やコンテスト、各種コンクールがあり、本校からは積極的に参加しているが、昨年度は、全国大会での成績はやや低迷していた。県大会はもとより、全国で活躍する取り組みが必要である。	【成果指標】 予選の有無やコンテスト等の特色により基準が異なることから、状況による判断基準を設定する。	[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。 A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した [地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。 A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した 各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。 A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選	Dの場合は、工業各科で、指導や取り組みの見直しを行う。	年度末に集約し、判断する。
4 人間力を高めるための部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。	① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。	生徒会課	部活動の加入率は、昨年度は94.9%であった。部活動は学校における活力の根源であり、学校活性化のための柱として位置付ける。 県総体での総合成績は男子が3位男女総合が9位であった。	【努力指標】 部活動への積極的な加入を促進し、加入率をみる。 【成果指標】 運動部・文化部のそれぞれが、県代表となることを目標に、活動のレベルアップを図る。	各学年の部活動の加入率で判断する。 A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満 県総体の成績等で判断する。(個人・団体あわせて) A 全国大会5部以上出場または総体順位男子2位以内 B 全国大会3部以上出場または総体順位男子4位以内 C 全国大会1部以上出場または総体順位男子6位以内 D 総体順位男子6位以下	C以下の場合は、部活動の在り方について、部活動顧問連絡会で改善策を検討する。 Dの場合は、部活動活性化に向けた方策を検討する。	部活動加入状況調査を実施する。 7月、11月 年度末に集計し、判断する。
	② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。	生徒会課	競技大会や県工祭など学校全体の行事や各学科の行う特色ある取り組みなど、多彩な行事が展開され、生徒の活力につながっている。上級生から下級生への伝統の継承という点からも重点的に取り組む必要がある。	【満足度指標】 学校行事の中で、特に体育祭と県工祭に対する満足度をみる。	生徒のアンケートにより、行事に満足したと回答する生徒の割合で判断する。 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は、次年度の行事について内容を検討する。	生徒を対象にアンケート調査を実施する。 12月
	③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。	保健課	一昨年度より歯科治療に関する目標を設定している。今年度も継続して受診生徒の増加を目指す。昨年度は25%であった。	【努力指標】 保健だよりなど情報提供により、歯科受診率の推移をみる。	歯科受診済の生徒の割合で判断する。 A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満	Dの場合は、学年団や部顧問と協力し、指導の取り組みの見直しを図る。	学期ごと受診結果報告書を集計し、判断する。 7月、12月、3月